

エテホン希釈液の散布量がホオズキの実の品質に及ぼす影響

エテホン1,000倍希釈液の散布量が少ないと着色不良が発生する

背景・目的

- ホオズキ栽培においては、エテホン希釈液の散布後にシミ果や着色不良果が発生することで、出荷本数が減少することが問題となっているが、その原因が解明されていません。
- そこで、エテホン希釈液の散布量がホオズキの実の品質に及ぼす影響を検討しました。

成果の内容

- シミ果先端部の発生は167ml散布に比べて133ml散布で多く、シミ果中間部の発生は各散布量で差が無く、エテホン散布量とシミ果の発生に一定の傾向は見られない
- 先端部未着色は、100ml散布が5.8個で133mlより多く、中間部未着色も100ml散布で多い傾向にある（表1、図1）
- 6～10節目および11～15節目で100ml散布の先端部未着色が多い（表2）。

表1 実の品質

試験区	着実数 (個)	シミ果先端部 (個)	シミ果中間部 (個)	先端部未着色 (個)	中間部未着色 (個)
100ml 区	15.2 ± 0.7 ^z a ^y	3.7 ± 0.5 ab	1.6 ± 0.3 a	5.8 ± 0.8 a	2.5 ± 0.3 a
133ml 区	14.5 ± 0.7 a	5.1 ± 0.8 a	1.6 ± 0.3 a	3.1 ± 0.5 b	2.0 ± 0.3 a
167ml 区	13.7 ± 0.6 a	2.3 ± 0.5 b	1.0 ± 0.2 a	4.1 ± 0.4 ab	1.9 ± 0.3 a
200ml 区	14.3 ± 0.6 a	4.5 ± 0.8 ab	1.2 ± 0.3 a	4.5 ± 0.7 ab	2.1 ± 0.3 a

^z平均値±標準誤差 (n=3)

^ySteel-Dwassの多重検定により同列の異文字間は5%で有意差あり

表2 着実節位ごとの着色不良果数

試験区	先端部未着色 (個)			中間部未着色 (個)		
	1～5 節目 ^z	6～10 節目	11～15 節目	1～5 節目	6～10 節目	11～15 節目
100ml 区	2.3 ± 0.3 ^y a ^x	2.1 ± 0.4 a	1.4 ± 0.3 a	0.0 ± 0.0 a	0.0 ± 0.0 a	1.8 ± 0.3 a
133ml 区	1.8 ± 0.3 a	0.8 ± 0.2 b	0.5 ± 0.2 ab	0.0 ± 0.0 a	0.1 ± 0.1 a	1.3 ± 0.3 a
167ml 区	2.9 ± 0.3 a	0.8 ± 0.2 b	0.4 ± 0.1 ab	0.0 ± 0.0 a	0.1 ± 0.1 a	1.2 ± 0.2 a
200ml 区	3.0 ± 0.4 a	1.0 ± 0.3 ab	0.3 ± 0.2 b	0.1 ± 0.1 a	0.0 ± 0.0 a	1.4 ± 0.2 a

^z着実最下位節を1節目としたときの節位

^y平均値±標準誤差 (n=3)

^xSteel-Dwassの多重検定により同列の異文字間は5%で有意差あり



図1 切り花の状態

成果の活用方法(又は期待される効果)

- ホオズキ生産者がエテホン希釈液の処理を行う際に利用できます。
- 普及対象地域・戸数 県内のホオズキ生産者 15戸

留意点

- 総合農試（宮崎市）でエテホン希釈液1000倍を摘葉をせずに散布した試験結果です。